

# 營業報告

2013年4月1日～2013年9月30日

第55期中間報告書

## 目次

- 01 株主の皆様へ
- 02 トピックス
- 03 当第2四半期の業績について
- 07 当第2四半期の概況
- 09 株式に関する事項
- 10 会社概要

## 株主の皆様へ

message

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第55期第2四半期(2013年4月1日～2013年9月30日)における連結決算の概要をご報告申し上げます。

当期における当社グループを取り巻く経済環境は、新政権による経済政策や金融政策への期待感から景況感は回復基調にありますが、欧州債務問題の長期化や世界経済を牽引していた新興国の減速懸念などより、総じて先行き不透明な予断を許さない状況が続いております。

しかしながら、大手半導体メーカーの次世代プロセス関連への設備投資が再開され、継続的な成長が見込まれる環境に移行しつつあります。

このような経営環境のもと当社グループは、超高速化の製品シリーズ開発を更に進め、タイムリーな顧客ニーズにお応えできる体制の強化と、経営資源の更なる積極投資に引き続き全力で取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、引き続きより一層のご理解と力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

広光 勲

## 第55期第2四半期 トピックス

当第2四半期は、中期経営計画の「実行と実現」による積極的な経営資源の投入で、引き続き新規製品開発と効果的なコラボレーションを効率的に実現することができました。

事業の核となる「組込み製品」では、高速アナログ/デジタル入力ボードの製品シリーズ化、「画像処理製品」では、CoaXPress製品のシリーズ化と高速化対応、スマートカメラシリーズの製品開発、ComExpress規格に対応した小型画像処理プラットフォームのシリーズ化、「計測通信製品」では、光を媒体としたGiGA CHANNELシリーズの製品シリーズ化を進めてまいりました。

また「リモート監視製品」では、データセンター関連への要求対応、「スマートエネルギー制御製品」では、エネルギーの見える化、外部システムを含めたトータルの制御など、新規ビジネス展開に向けた製品化及び開発を計画通りに遂行させることができました。

引き続きの継続テーマではありますが、医療、太陽電池・二次電池、電力・鉄道・船舶・車両、バイオ・薬剤・食品業界といった新たな分野への積極的な提案営業による開発案件の取込み、また東アジア諸国への戦略製品の市場展開も徐々に進みつつあります。



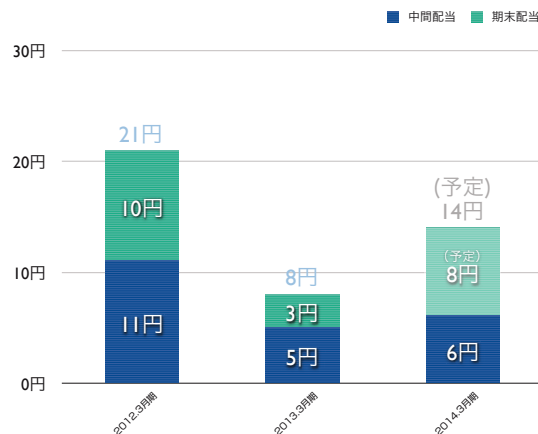
超高速A/Dコンバータボード  
APX-5040  
医療用検査装置などで採用されている  
400MHzサンプリングの高速A/D変換ボード

## 第55期 中間配当の実施について

当社は、将来の企業価値向上に向けた事業投資に伴う中長期的な資金需要や財務状況の見通しなどを総合的に勘案し、連結配当性向30%を基本に安定的な配当にも考慮しつつ、株主の皆様への成果配分を行っております。

当期の配当金につきましては、このような基本方針のもと、既に10月16日に業績及び配当予想の修正発表を行いましたとおり中間配当を1株当たり6円とさせていただきます。

なお、期末配当は1株当たり8円とし、通期配当金は14円(前期実績8円)を予定しております。



## 当第2四半期の業績について（連結）

新政権による経済・金融政策への期待感から、円高の是正や株価回復の動きもあり、企業業績や消費動向が改善するなど景気回復に向けて明るい兆しが見られるものの、海外経済の減速等により先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

このような経営環境のもと、当社グループは顧客満足度の更なる向上のために、市場ニーズを先取りした新製品の投入によりお客様の装置の競争力向上に貢献するとともに、省電力および生産性向上にむけた設備導入と環境に優しいモノ作りを実現、品質面では業界水準を越える品質の確保、さらに社内の業務プロセスを見直すことにより、収益性の向上に取り組みました。

この結果、当第2四半期における売上高は2,801百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益は117百万円（前年同期比23.0%増）、経常利益は154百万円（前年同期比29.7%増）、四半期純利益は95百万円（前年同期比60.5%増）となりました。

**1** 販売費及び一般管理費784百万円には今後の製品展開のための研究開発及び広告宣伝の費用313百万円が含まれております。

**2** 現金及び預金が241百万円増加、受取手形及び売掛金が284百万円増加、電子記録債権が227百万円増加、商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品が119百万円増加、その他が主に顧客からの支払方法がファクタリングから電子記録債権へ切替ったことにより331百万円減少した結果、540百万円増加し6,492百万円となりました。

## 損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	前期	当期
	2012年4月1日～ 2012年9月30日	2013年4月1日～ 2013年9月30日
売上高	2,736	2,801
売上原価	1,820	1,899
売上総利益	916	902
<b>1</b> ← 販売費及び一般管理費	820	784
営業利益	95	117
営業外損益	24	37
経常利益	119	154
特別損失	13	0
税金等調整前四半期純利益	105	154
法人税等	36	54
少数株主利益	10	5
四半期純利益	59	95

**3** 有形固定資産が26百万円減少、投資その他の資産が投資有価証券の時価変動等の影響により192百万円減少した結果等により、220百万円減少し3,541百万円となりました。

**4** 原材料等の仕入増加に伴い支払手形及び買掛金が323百万円増加、その他が未払法人税等が68百万円増加、賞与引当金が50百万円増加した結果等により425百万円増加し1,087百万円となりました。

## 貸借対照表（要旨）

(単位：百万円)

科目	前期年度末	当期
	2013年3月31日現在	2013年9月30日現在
■資産の部		
<b>2</b> ← 流動資産	5,952	6,492
現金及び預金	3,245	3,486
受取手形及び売掛金	873	1,157
電子記録債権	86	314
商品及び製品	357	290
仕掛品	227	290
原材料及び貯蔵品	567	690
その他	594	262
<b>3</b> ← 固定資産	3,762	3,541
有形固定資産	2,211	2,185
無形固定資産	76	73
投資その他の資産	1,474	1,282
投資有価証券	1,404	1,215
その他	69	66
資産合計	9,714	10,033

**5** 主に繰延税金負債、長期借入金、退職給付引当金等の減少等により90百万円減少し474百万円となりました。なお、長期借入金は「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」導入によるものであります。

(単位：百万円)

科目	前期年度末	当期
	2013年3月31日現在	2013年9月30日現在
■負債の部		
<b>4</b> ← 流動負債	661	1,087
支払手形及び買掛金	319	643
その他	341	444
<b>5</b> ← 固定負債	564	474
負債合計	1,225	1,561
■純資産の部		
株主資本	7,224	7,321
資本金	2,354	2,354
資本剰余金	2,446	2,446
利益剰余金	3,752	3,828
自己株式	△ 1,328	△ 1,307
その他の包括利益累計額	586	466
新株予約権	8	14
少数株主持分	668	670
<b>6</b> ← 純資産合計	8,488	8,472
負債純資産合計	9,714	10,033

**6** 利益剰余金が76百万円増加、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」導入により自己株式が20百万円減少、投資有価証券の時価変動の影響により、その他有価証券評価差額金が120百万円減少した結果等により、16百万円減少し8,472百万円となりました。

## 当第2四半期の業績について（連結）

### キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

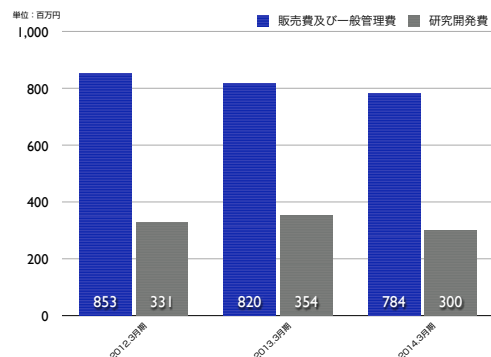
科目	前期	当期
	2012年4月1日～ 2012年9月30日	2013年4月1日～ 2013年9月30日
7 営業活動による キャッシュ・フロー	397	349
8 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 196	△ 86
9 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 71	△ 22
現金及び現金同等物の 増減額	130	241
現金及び現金同等物の 期首残高	2,251	2,255
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,382	2,496

**7** 営業活動によるキャッシュ・フロー  
349百万円の増加となりました。主に、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の計上、未収入金の減少、仕入債務の増加及び法人税等の還付等の増加要因が、売上債権及びたな卸資産の増加等の減少要因を上回ったことによる増加となります。

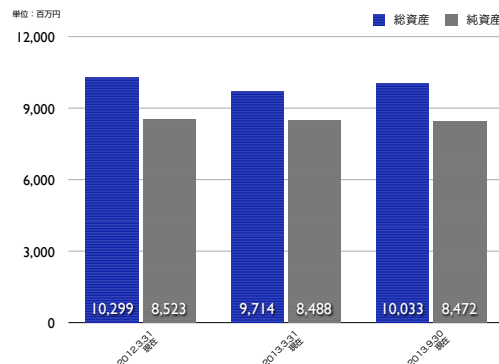
**8** 投資活動によるキャッシュ・フロー  
86百万円の減少となりました。主に、有形及び無形固定資産の取得といった減少要因による減少となります。

**9** 財務活動によるキャッシュ・フロー  
22百万円の減少となりました。主に、自己株式の売却による収入といった増加要因を、配当金の支払、長期借入金の返済による支出等の減少要因が上回ったことによる減少となります。

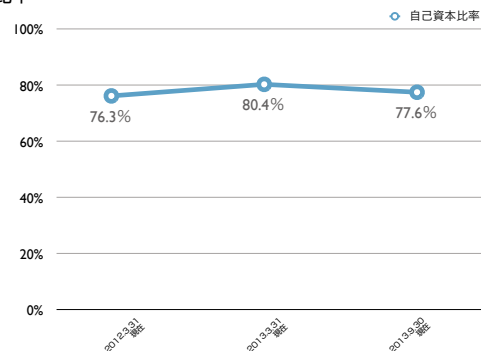
### 販売費及び一般管理費 / 研究開発費



### 総資産 / 純資産



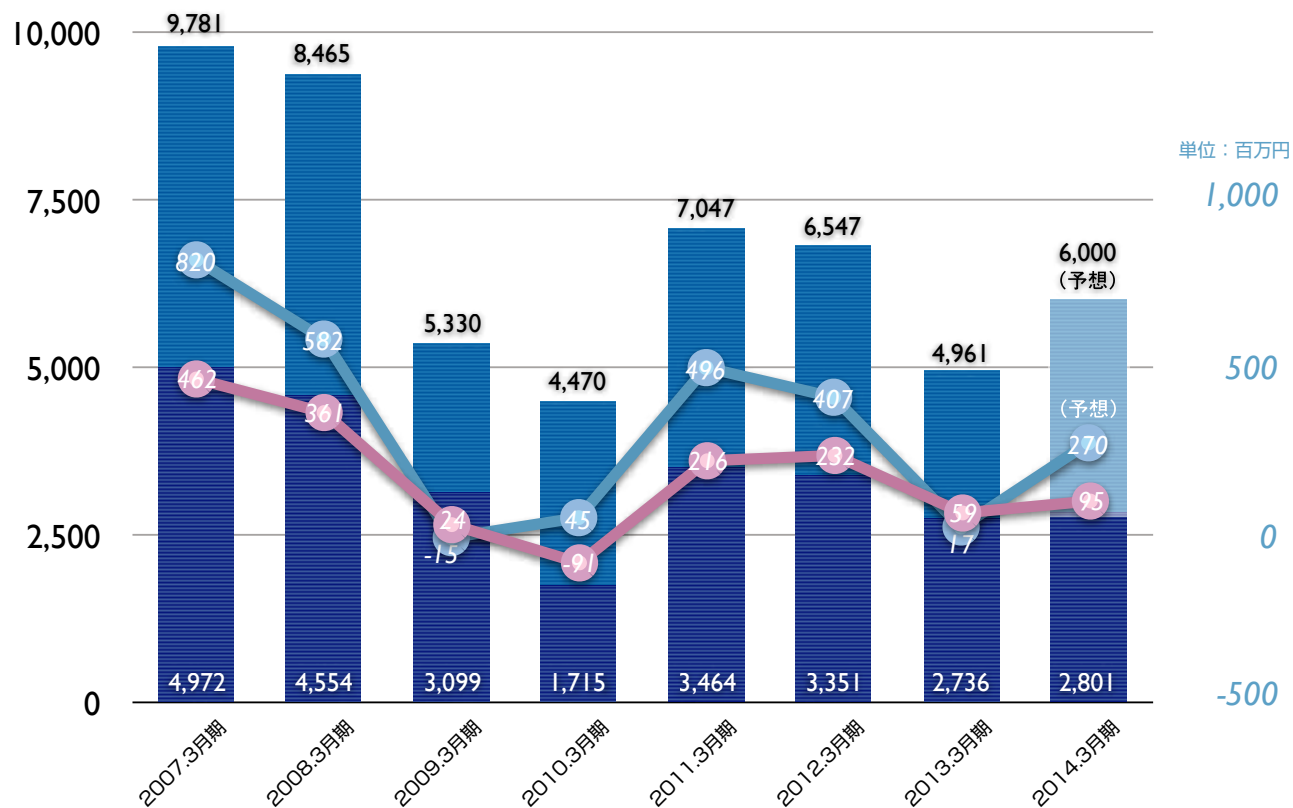
### 自己資本比率



■売上高 / 純利益

単位：百万円

■ 第2四半期売上高 ■ 通期売上高  
 ● 四半期純利益 ● 当期純利益



## 当第2四半期の概況

当社グループでは、事業内容を受託製品と自社製品の2つの報告セグメントに分けております。

### 1. 受託製品

当セグメントは、半導体製造装置関連、産業用制御機器および計測機器の開発・製造・販売を行っております。半導体製造装置関連におきましては、大手半導体メーカーの設備投資が再開され、現在、関連する受注が好調に推移しております。

この結果、売上高は1,833百万円(前年同期比5.7%増)、セグメント営業利益は198百万円(前年同期比6.8%減)となりました。

#### ■ 受託製品 半導体製造装置関連

半導体製造装置の制御部を提供しております。大手半導体メーカーのLSI微細化が続く中、最先端の半導体製造装置への設備投資が再開され、売上高は大幅に増加し、1,189百万円(前年同期比30.9%増)となりました。

#### ■ 受託製品 産業用制御機器

各種の産業用装置、社会インフラ関連の制御部の開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。産業用装置の受注は回復基調にあるものの、社会インフラ関連が引続き低迷したため、売上高は減少し、314百万円(前年同期比15.4%減)となりました。

#### ■ 受託製品 計測機器

各種計測機器のコントローラ、通信機器の制御部の開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。各種計測機器の受注の低迷が継続しており、売上高は減少し、329百万円(前年同期比27.5%減)となりました。

### 2. 自社製品

当セグメントは、組込みモジュール、画像処理モジュールおよび計測通信機器の開発・製造・販売並びにこれらに付属する周辺機器およびソフトウェア等の自社製品関連商品の販売を行っております。一般的な産業用装置における設備投資が回復基調にあることに加え、新製品の立ち上がり等により自社製品全般の受注は回復局面に転じております。

この結果、売上高は968百万円(前年同期比3.4%減)、セグメント営業利益は171百万円(前年同期比47.0%増)となりました。



#### ■ 組込みモジュール

半導体製造装置、FA全般、電力・通信関連向けに提供しております。FA全般および半導体製造装置関連の需要は回復局面にあり、売上高は増加し、236百万円(前年同期比10.6%増)となりました。

#### ■ 画像処理モジュール

FA全般、各種検査装置、液晶関連機器に提供しております。新製品の立ち上がりに加え新分野での営業開拓が順調に進みましたが、FA全般および液晶関連装置はいまだ本格的な回復には至っておらず、売上高は減少し、215百万円(前年同期比29.2%減)となりました。

#### ■ 計測通信機器

超高速シリアル通信モジュール「GIGA CHANNEL」シリーズ、FAXサーバ・コールセンター向けCTI(Computer Telephony Integration)・リモート監視機器およびスマート電源装置を提供



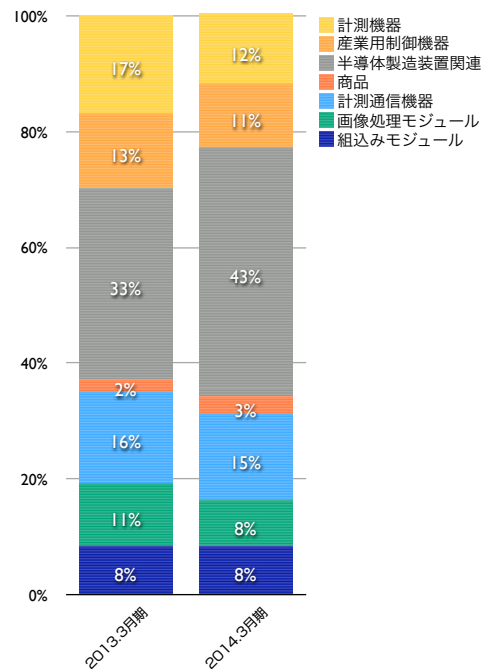
しております。超高速シリアル通信モジュールにおいては顧客の開拓は引き続き順調に推移しましたが、一時的な需要の低迷により、売上高はわずかに減少し、421百万円（前年同期比1.7%減）となりました。



### ■ 自社製品関連商品

自社製品の販売促進とシステム販売による高付加価値化を図るため、ソフトウェアおよび付属の周辺機器を提供しております。市場の回復傾向により、売上高は増加し、94百万円（前年同期比73.7%増）となりました。

### ■ 第2四半期売上構成比率（前年同期との比較）



### 第55期第2四半期に出展したおもな展示会

#### MEDTEC Japan 2013

2013年4月24日～25日（東京ビッグサイト）

#### 第16回 組込みシステム開発技術展

2013年5月8日～10日（東京ビッグサイト）

#### 第6回データセンター構築運用展（春）

2013年5月8日～5月10日（東京ビッグサイト）

#### 画像センシング展 2013

2013年6月12日～14日（パシフィコ横浜）

#### Smart Energy Japan 2013 in Osaka

2013年6月13日～6月14日（インテック大阪）

#### TECHNO-FRONTIER 2013

2013年7月10日～7月12日（東京ビッグサイト）

### 第55期第2四半期に開催したセミナー

#### 第5回 組込み技術セミナー

FPGA 画像処理を自ら構築する

町田:2013年9月18日, 大阪:2013年9月26日, 名古屋:2013年9月27日



## 株式に関する事項

## 株式の状況 (2013年9月30日現在)

発行可能株式総数	23,500,000株
株式の種類	普通株式
発行済株式の総数	8,064,542株
株主数	1,611名
単元株式数	100株

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月開催		
基準日	定時株主総会の議決権	毎年3月31日	
	期末配当金	毎年3月31日	
	中間配当金	毎年9月30日	

## 大株主 (上位10名)

株主名	持株数
株式会社ニコン	1,293,400株
御船 滋	365,900株
アパールグループ社員持株会	337,203株
奥村龍昭	237,000株
嶋村 清	187,500株
株式会社アクセル	160,000株
野村信託銀行株式会社 (アパールグループ社員持株会専用信託口)	151,200株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	142,200株
奥村秀樹	137,000株
株式会社日本マイクロニクス	119,600株

## 当社のIRに関して

当社は、投資家の皆様に、広く当社をご理解いただくため、適切な情報開示に努め、さらにIR活動の充実を目指しております。

株主様をはじめ個人投資家の皆様には、工場見学会、決算説明会の開催をとおして、当社及び当社製品についてのご理解を深めていただくことを心掛けております。

またアナリスト、機関投資家向け決算説明会を年2回定期的に開催し、当社の経営状況について経営者より直接ご説明をさせていただいております。

個人投資家向け説明会



## 決算説明会、会社説明会 (工場見学会)

2013年5月16日	アナリスト及び個人投資家向け2013年3月期決算説明会開催：大手町サンケイプラザ
2013年9月5日	個人投資家向け会社説明会開催：SMBC日興証券上大岡支店
2013年11月19日	日本証券アナリスト協会主催アナリスト向け2014年3月期第2四半期決算説明会開催：兜町平和ビル
2013年11月22日	厚木事業所工場見学会 (業績説明会) 開催

商号	株式会社アバールデータ
資本金	23億5,409万円
設立年月日	1959年(昭和34年)8月
社員数	177名(2013年9月30日現在)
事業内容	一般通信機器の製造販売、工業用計測器並びに工業用制御装置の製造販売、物理、化学、医学用等の電子装置の製造販売、その他の各種電子応用装置の製造販売
役員	代表取締役社長 広光 勲
	常務取締役 仲山典邦
	常務取締役 菊地 豊
	取締役 嶋村 清
	取締役 河合芳道
	常勤監査役 三国 悟
	監査役 金子健紀
	監査役 橋本照夫



アバールデータの経営理念、AVALue<sup>+</sup>（エー・バリュー・プラス）とは、それぞれ以下の頭文字を、加えて生まれた造語です。AVAL:「Available:有用性」から付けられた当社の社名AVAL。そのうえA'には:技術の「Advance:先進性」、その品質の「Assure:保証」、サービスや対応の「Agile:早さ」など様々な「価値」の意味を表しています。u:私たちの会社の理念「顧客を第一に考える」の姿勢(u[user oriented]) e:「エレクトロニクス」に代表される当社の技術(e[e-solution])。そして+:にはAVALueを進める推進力として社員一人一人が持っている潜在力を一つのベクトルにあわせて働きかけ加速させ、いつでもお客様に必要な価値を追及し提供する決意を表しています。

---

商号	株式会社アバール長崎
資本金	1億3,400万円
設立年月日	1987年(昭和62年)11月
社員数	123名(2013年9月30日現在)
事業内容	電子機器の開発・設計・製造・販売(C T I 関連機器、半導体製造装置、画像処理機器、計測制御機器、通信関連機器、カスタム設計 F A コンピュータの研究開発・設計・製造・販売)
代表者	代表取締役社長 川浪義光

## 株式事務のご案内

株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

各種お問合せ先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

### 公告方法

電子公告の方法により行います。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

当社のWebサイトアドレス<http://www.avaldata.co.jp>

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。

確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

## 株式会社アバールデータ

〒194-0023 東京都町田市旭町 1-25-10

TEL042-732-1000 FAX042-732-1022

<http://www.avaldata.co.jp>

